

第11期(令和5年度～6年度)

鹿角市行政評価市民会議 意見集

令和6年6月

◆第7次総合計画前期基本計画

取組方針		担当課	事業又は項目名	令和5年度				継続検討課題
				R5 委員の意見	既に取り組中であったもの	R6実施計画(7次総)に反映したもの	反映が困難なもの	
1	地域産業の成長を支援します	農業振興課	スマート農業推進事業	・ある程度面積がないとドローンやAIの導入ができないため、小規模でも農家をやりたいという若手に対して使いやすい補助制度を検討してほしい。(R5第2回)	・国・県の支援と住み分けをしながら、市では比較的導入額の少ない機器を対象として進めている。	・既存の農業機械に後付けできる自動操舵システムを新たに補助対象機器に加え、農作業の省力化やコスト削減による担い手の経営規模拡大と農地の集積・集約化を進める。		
3	市内外から産業の担い手を確保します	産業活力課/政策企画課	外国人材活用支援事業	・会社で高いお金を払って特定技能の外国人を呼び込んでも、支援が行き届かず、都会に流れ出る事例があるため、手厚い支援が受けられるよう、市内に支援機関や管理団体の設置を検討してほしい。(R5第2回)		・外国人材の受入態勢を充実させるため、企業が行う外国人材向けの社宅整備について、空き家・中古物件の改修費用を新たに支援する。		・商工会において、労働福祉委員会で外国人受入れに関する検討を行っていることから、商工会の取組を支援しながら、外国人労働者雇用の企業ニーズを引き続き調査し、官民一体となった取組を検討する。
4	心身の健康づくりに取組みます	すこやか子育て課	妊産婦支援事業	・妊娠・出産の際、鹿角市はとも子育てしやすい環境であると思うが、不妊治療に対する支援を拡充してほしい。(R5第2回)	・出産に至らなくても、不妊治療(特定・一般)不育症治療費の助成を行うことで、精神的・経済的負担の軽減を図っている。			
			予防接種事業	・予防接種を受けることで免疫力の低下や他の病気発症、不妊症につながるケースもある。また、子どもの予防接種は年々種類が増え、受けさせる親の負担も増えている。長期的に本当の意味で健康でいてもらうためにも予防接種後に長い月日を経て出てくる副作用を含めるデメリット等についての正しい情報を市民にしっかりと伝えて頂きたい。(R5第3回)	・予診票配布時に「予防接種と子どもの健康」を保護者へ配布し、「予防接種ガイドライン」を医療機関に配布しているほか、個人通知により接種勧奨をする際に説明用紙を同封する等、副作用について十分に周知した上で本人が納得して予防接種が受けられるよう努めている。			
			こころの健康づくり推進事業	・若年者健康事業の推進、地域の実情に応じた取組みや相談窓口の周知徹底について、良い案ではあるが、自殺ゼロを目標にするのであれば、辛いと感じた時にはもう手遅れなケースがほとんどであるため、定期的に市民全体の心身健康アンケートを集めるなどし、お悩みに傾聴もしくは実践してみること効果が得られるのではないか。(R5第3回)	・毎年、傾聴ボランティアやゲートキーパーを養成しており、悩みに耳を傾けられる人材の育成を図っている。	・市役所や社会福祉協議会等、公的な相談機関を利用しやすいよう、相談先一覧を作成して全戸配布し、周知していく。		・悩みを抱えている人は相談の必要性を感じているものの、SOSを出すことが難しいという結果になっている。相談機関へのアクセス向上など、サービスの利用に結び付く取組みをさらに進めていく。

取組方針		担当課	事業又は項目名	令和5年度				継続検討課題
				R5 委員の意見	既に取組中であったもの	R6実施計画(7次総)に反映したもの	反映が困難なもの	
5	適切な医療を受けられる体制を整えます	福祉総務課	医師確保対策事業	・市内で産科を持つのは難しいのか。どのくらいの出生数があれば先生を置けるのかという目標値を定めて、そこに行き着くよう市役所と住民と一緒に全力で取組み、全体で考えていかなければいけない。(R5第2回)				・現在大館市に分娩機能が集約されているが、その維持も難しい状況であり、市内で出産可能な産科を持つことも非常にハードルが高いことから、現状維持に注力している状態である。 ・これまでの医師確保策や支援策を行いながら、引き続き医学生に対する修学資金支援を継続することで医師確保に繋げる。
			かづの地域医療推進事業/医療機関開設資金支援事業	・大館市の眼科に通っているが、鹿角市においてもっと病院の選択肢があればいい。(R5第3回) ・中核病院の医療機能の維持・充実にかかわる運営費等を支援するとあるが、個人病院の医師の高齢化も視野に入れるべきである。(R5第3回)	・市内で開業を希望する医師に対して、開設資金の支援や看護師等の医療スタッフの雇用に対する費用を支援している。これまでに、皮膚科、小児科、内科などの開院につながったほか、R6から耳鼻咽喉科が常勤となる効果がみられている。			・医療機関の新規開設に係る継続支援や、事業承継支援を検討することで医師確保につなげ、適切な医療を受けられる地域の医療体制の構築を目指している。
6	結婚の希望が叶うよう応援します	政策企画課	出会い応援事業	・独身の人たちが自分たちでイベントの企画や準備をすると、カップリング率も高まると言われていることから、間口を広げて、参加しやすい婚活を目指してほしい。(R5第2回)		・女性の参加者が少ないという課題解決のため、独身女性向け「女子力アップセミナー」を新たに開催することで、自分磨きで自信をつけ、婚活への意欲向上と独身女性参加者の獲得を目指す。		・参加しやすいイベントとなるよう、現行の補助制度を拡充できるかどうかも含め検討する。
				・女子力向上セミナーの内容について、既婚者も参加可能か。また、未婚者のみでは身構える人もいるのではないかと。もしくは、最初から花嫁修業企画として設け、未婚者を集めるのもよいのではないかと。家事全般を専門家が教えてくれる教室にすると興味が湧くのではないかと。(R5第3回)		・気軽に婚活イベントへ参加いただける工夫として、R6は満20歳以上の独身女性を対象に骨格診断やパーソナルカラー診断を行い、生まれ持った骨格や肌の色に合うファッションを知り、自分磨きをすることで自信をつけ、婚活への意欲向上と独身女性参加者の獲得を目指す。		・結婚の入り口となる出会いイベントに、いかに抵抗なく参加いただけるか創意工夫に努めるほか、参加者へのアンケートによりニーズを捉え、今後の内容を検討していく。
				・マッチングアプリに抵抗がある人もいるため、アンケート形式で、結婚の意思があるか、結婚に求める条件を提出し、なおかつマッチングを希望するかも問い、良ければマッチングを成立させるのもよいのではないかと。(R5第3回)	・市が推奨するマッチングシステムは、あきた結婚支援センターが運営する公的なもので、利用者の安心安全な出会いを促している。市主催の婚活イベントの参加者に、あきた結婚支援センターを紹介しており、結婚を真剣に考えている方に対し、出会いの機会の創出とマッチング支援を図っている。			

取組方針	担当課	事業又は項目名	令和5年度				継続検討課題
			R5 委員の意見	既に取組中であったもの	R6実施計画(7次総)に反映したもの	反映が困難なもの	
7 地域ぐるみの子育て支援を充実します	すこやか子育て課	すこやか子育て支援事業/ファミリー・サポート・センター運営事業/放課後児童クラブ運営事業など	「鹿角市は子育てが充実している」という程度ではなく、「鹿角市しかそれが無い」というくらいの魅力がないと鹿角市に人が移ってこない。鹿角市にしかない子育て支援策があったら面白いと思う。(R5第1回)	・一時的な経済支援だけではなく、保育料無償化のほか、ファミリー・サポート・センター事業や児童クラブ運営など、子どもの成長段階に応じて、その都度親の子育てニーズを捉えたサービスの充実を図っている。	・所得制限により多子世帯軽減の適用外となっている世帯についても、市の独自支援として保育料の完全無償化を図るほか、3歳以上児に対する主食を無償提供し、子育て支援の充実・強化を図る。 また、「こども家庭センター」を設置し、妊産婦や子育て世帯の一体的な相談支援を行う。		
		ファミリー・サポート・センター運営事業	・ファミリー・サポート・センターの受講者登録数について、受講者7名のうち登録は1名だが、なぜか。賃金が安い理由から私も登録しなかった経緯がある。(R5第2回)	・様々なニーズに対応できるよう体制強化を図るため、R5年度より報酬額を改定し新規登録の会員勧奨につなげている。			
8 高齢者のいきいきとした暮らしを支援します	あんしん長寿課	介護人材確保推進事業	・高齢社会となり、介護施設や老人ホーム等の施設のマンパワーが足りないこと、賃金が低いので働き手がいないことが問題である。そのフォローも産業の一つになるし、産業のみならず福祉の問題でもある。(R5第1回)		・中高生向けに実施している介護人材育成セミナーを小学生へも拡充することで、より早い段階から介護職について理解・関心を深めてもらい、介護人材の確保を目指す。 また、マンパワー確保策として、外国人材活用支援事業とも連携していく。		・人手不足業種の人材確保と移住・定住の促進を図る支援を検討する。
		老人クラブ育成事業/シルバーリハビリ体操指導士養成事業/地域生き生きサロン推進事業	・高齢化するの仕方ないが、健康で元気な高齢者が増えればよい。(R5第3回)	・市では、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、老人クラブの活動支援や地域生き生きサロンの開催支援、シルバーリハビリ体操の普及拡大により、住民主体の介護予防活動を推進している。			
		シルバーリハビリ体操指導士養成事業/地域生き生きサロン推進事業	・シルバーリハビリ体操の普及拡大や地域生き生きサロンの開催支援について、各催し物や市日での開催も増やすことで地域全体が馴染みやすくなるのではないかと。また、デイサービスやグループホーム等のレクリエーション等に出向くことで、高齢者の機能維持につながり、生き生き支援になるのではないかと。	・シルバーリハビリ体操については、R5は市日でのチャレンジデーやRIZAPセミナー等、計5回のイベントに参加している。地域生き生きサロンについては、R5に市日内の施設を会場にさきわい蔵サロンが新たに開設された。また、R3から東恵園デイサービスでシルバーリハビリ体操を実施しているほか、介護保険事業所職員向けのシルバーリハビリ体操講習会を開催している。			

取組方針		担当課	事業又は項目名	令和5年度				継続検討課題
				R5 委員の意見	既に取り組中であったもの	R6実施計画(7次総)に反映したもの	反映が困難なもの	
9	誰もが尊重され、社会参加できる地域をつくります	福祉総務課	地域生活支援事業/重層的支援体制整備事業(地域活動支援)/地域福祉活動支援事業/重層的支援体制整備事業(他機関協働事業)	・地域福祉活動について、社協や行政の他に「地域(自治会)」も考慮されており、望ましいが、「地域(自治会)」はつながりが希薄になっているように感じる。時代の変化に即しSNSの導入等を検討してもよいのではないか。(R5第3回)				・地域福祉活動にSNSを導入することで、地域のつながりや支援体制を強化する可能性は大きくあるため、課題や現状を整理していく。
			権利擁護推進事業	・地域福祉計画における「市民後見人を含めた成年後見人の養成を検討します。」について賛成である。この先、法改正等により成年後見のあり方が変わっていくと予想されるため、今のうちから市民後見人を養成するよう期待している。(R5第3回)	・成年後見制度利用促進基本計画を策定し、成年後見支援センターの運営を社会福祉協議会に委託して利用促進に取り組んでいる。			・市民後見人については、専門職後見人や法人後見の活用状況を踏まえながら検討する。
11	安全・安心な住まいづくりを進めます	生活環境課	空き家等適正管理推進事業	・空き家に関しては固定資産税の事を考慮し必要のない建物をそのままにしているケースも多いかと思う。除却時の費用補助もあるが、固定資産税の一部免除というのもメリットが大きいと思われる。(R5第3回)				・R5.12月に空き家等対策の推進に関する特措法が改正され、特定空き家になるおそれのある空き家(管理不全空き家)に対しても、勧告によって固定資産税の特例を解除できるようになった。この運用方法の検討と合わせ、解体費用の補助や空き家バンクへの登録等を継続しながら、有効策を検討していく。
13	ごみの適正処理と資源リサイクルを進めます	生活環境課/広域行政組合事務局	資源リサイクル等推進事業	・ごみ出しの際にごみの分別が徹底されておらず、ごみ処理場の方たちが集まったごみをさらに分別している状況である。小学生が学校でリサイクルの勉強をしており、それを家庭でも簡単に分かるように広めてもいいのではないかと。(R5第1回)		・鹿角市快適環境まちづくり市民会議において、リサイクルを題材とした環境講座を実施する。 また、市民の利便性の向上を目的に、新たに宅配便を活用した小型家電回収に取り組む。		・全国的にリチウムイオン電池による火災の事例があることから、収集や処理に関する協議を継続していく。 ・意識醸成を図るため、市民一人ひとりができる3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取組を広報等を活用し発信する。
14	緑と水の映えるまちの環境を守ります	農地林務課	森林環境保全直接支援事業	・森林皆伐後の再造林割合が目標値に対して既に倍以上の結果が出ている等、目標値を見直すべきではないかと。(R5第2回)				・伐採届の皆伐面積に対して再造林の面積が多かったことから目標値を上回り再造林が進んでいる。次年度より、第7次総合計画後期計画の策定作業が始まるので、その中で、森林経営計画を踏まえて見直しを検討していく。

取組方針		担当課	事業又は項目名	令和5年度				継続検討課題
				R5 委員の意見	既に取り組中であったもの	R6実施計画(7次総)に反映したもの	反映が困難なもの	
15	災害への対応力のある地域をつくります	総務課	自主防災組織育成事業/防災対策啓発事業/地域防災力向上事業/	・消防団のみならず、災害時の対応を自治会単位でもよいので、積極的に避難訓練や危険箇所の確認、救命講習を行うべきである。(R5第3回)	・自主防災組織を93の自治会で組織している。災害時に自主防災組織が行う防災活動や活動に必要な資機材に要する経費の一部を支援しているほか、消火訓練や煙体験、土のう提供等により、自治会及び自主防災組織が行う訓練及び災害対策への支援をしている。			
18	防犯や交通安全を進めます	生活環境課	交通安全対策推進事業	・毛馬内住宅ができてからユニバースに横断歩道ではない道路を横断する人が増えた。事故に結び付く可能性が高いため、強く呼びかけてほしい。(R5第2回)				・自治会を通じて申し入れるほか、交通安全への意識高揚が図られるよう取組んでいく。
19	子どもから青少年までの生きる力を育みます	総務学事課/生涯学習課	ICT活用教育事業	・家庭によってはタブレットが1台追加されることでルーターが追いつかないという事案が出てくると思うが、ルーターの貸し出しは検討していないのか。(R5第2回)	・経済的理由により学力格差が生じないよう、就学援助費の中でオンライン学習関連費を支援している。			・今後家庭での学習用端末の活用が増加することが想定される。 ・学校施設ではインターホンの設置により防犯対策を行っているが、必要に応じてさらなる強化の必要性を検討する。また、高齢者の安全確認についても、現在見守り電話を活用しているが、デジタル化への移行が可能かを含め検討する。
			地域で共に子どもを見守り育てる環境の充実	・現在児童クラブ(旧村木医院跡地)に設置されている入退室QRカードを各学校や公共施設に設置することで、防犯カメラの少ない地域で市民を守る第一歩になるのではないかと。高齢者の安全確認にもなるため、災害時の安否確認や一人暮らしの方は遠方に住んでいる家族の安心にもつながる。(R5第3回)				
20	地域の特色のある教育活動を実施します	総務学事課/生涯学習課	家庭・地域社会・学校の連携強化	・部活動が始まった小学校高学年、中学生あたりの子を持つ親は、週末の度に大会があり、お金の面とその忙しさで子ども一人でも大変だという声が出ている。学校の先生の負担を減らすことは大事だが、だからといって親に負担が来ると第2子、3子を諦めることも十分にあり得る。親に対しても支援できるところがあれば、親の気持ちに余裕ができるのではないかと。(R5第1回)		・学校(部活動)と団体、スポーツ協会、市との間で様々な調整を行うほか、それぞれの意見を聞きながら、スムーズな地域移行が進むようアドバイスする「部活動地域移行コーディネーター」を新たに配置する。また、モデル団体による地域移行実証に取り組む、課題等を検証する。		・部活動地域移行検討委員会を設置し、今年度は4回の会議を行い、運営主体のあり方や、課題整理を行う。子どもたちにとって望ましい活動環境を整えられるよう検討を重ねる。
21	自ら学び行動する社会人を支援します	生涯学習課	かづの人財発掘事業	・子育て世代の女性議員がいると、また目線が違おうと思う。女性による模擬議会をぜひ行った方がよい。(R5第1回)	・子育て世代の意見を交わす場として、「鹿角の未来創造わけもの塾」の取組を継続していく中で機会を創出し、人材育成に取り組む。			

取組方針		担当課	事業又は項目名	令和5年度				継続検討課題
				R5 委員の意見	既に取り組中であったもの	R6実施計画(7次総)に反映したもの	反映が困難なもの	
26	次世代産業の創出に取り組めます	産業活力課	起業・創業支援事業	・湯沢市はゆざわ-Bizという起業支援や経営の相談を行っている組織があるが、起業前のシミュレーションや事業計画等作成のサポートをする組織があるといい。(R5年第2回)	・県のよろず支援拠点のコーディネーターが月1回、まちなかオフィスで相談を受け付けており、事業計画作成等の支援をしている。			
			事業承継支援事業	・コロナがある程度落ち着いた状況であるが、飲食店や代行等への支援を引き続き行ってほしい。(R5第2回)	・事業承継を終えた事業者の紹介動画の作成と、よろず支援拠点等の支援機関との連携により、市内経営者の高齢化と後継者不在による廃業の抑制に取り組んでいる。	・民間マッチングサイトを活用したオープンな事業承継マッチングを紹介することで、起業や創業を求める移住者の呼び込みへと繋げる。		
28	ヘリテージ・ツーリズムに取り組めます	産業活力課	大湯環状列石JOMON体感促進事業／VIST KAZUNOプロモーション強化事業	・他地域と縄文時代の情報共有をすることで、新たな交流やイベント開催により興味を持ってもらうことが重要と考えるため、食文化のコラボ商品の提供やイベントが増えたとよい。(R5第3回)	・世界遺産「北海道・東北の縄文遺跡群」の関係自治体との間で協議会を発足しているほか、さらには民間団体や地域住民の代表も含めた形での連絡会議も設置されており、連携を図りながら資産の保全と公開・活用の検討を進めている。 ・縄文鹿魂祭や鹿角の郷土料理シンポジウムを開催し、歴史・食文化による観光誘客を図ったほか、藤里町で開催された「白神山地と縄文」において、縄文食体験について講演を行うなど積極的なPRに取り組んでいる。			
30	未来技術の導入を進めます	総務課	行政手続等デジタル化推進事業	・今後、行政評価市民会議のデジタル化は行われるのか。(R5第1回)				・利便性や効率性を勘案しながら、デジタル化への検討を進める。
				・保育園、小学校、児童クラブなど、類似する提出書類においてその都度同じこと(親の職業、電話番号、緊急連絡先、同居人等)を繰り返すのが苦痛である。市が掲げるゼロカーボンに向けて簡略化を考えて頂けないか。作業・紙のムダはまだ多いように感じる。プレミアム商品券はやり方次第でかなりのコスト削減に繋がり、その分更に市民に還元できると考えられる。(R5第3回)				・管轄が違う手続きを一括で完結させることは様々な障壁があるものの、個々の手続きにおいては現在電子申請サービスの提供を拡充しているところであり、市民の利便性向上につながるよう、手続き数の増加を検討していく。